



プログラム・マネージャー（PM） の育成・活躍推進プログラム

令和2年度（第6期）公募要領

公募期間

令和2年4月23日（木）～令和2年6月4日（木）~~30日（火）~~

応募締め切り

令和2年6月4日（木）~~30日（火）~~ 正午



国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

目 次

I. 「プログラム・マネージャー（PM）の育成・活躍推進プログラム」について	2
（1）PM 育成プログラムの目的と育成を目指す PM の基本的人材像・基本的能力	3
（2）PM 育成プログラムの構成	4
（3）PM 育成プログラムの特色と主なメリット	6
（4）研修生に求められるもの	7
（5）研修プログラムについて	8
（6）メンターによる助言について	9
II. 公募・選考について	11
（1）公募・選考スケジュール	11
（2）採択予定人数	11
（3）応募者の要件	11
（4）選考方法	12
（5）選考基準	12
（6）利害関係者の排除	12
（7）秘密保持	12
（8）公表	13
（9）応募に際しての注意事項	13
（10）研修生資格の中断・取消	13
III. 応募方法について	13
（1）応募方法	13
（2）提出書類	14
（3）注意事項	14
応募者提出書類様式（記載要領）	16
1. 応募者の基本情報	17
2. 小論文	18～20
応募者基本情報 様式 1	21～23
小論文 様式 2	24～25
3. 個人情報の取扱いに関する同意書 様式 3	26
4. 所属機関の同意書 様式 4	27
5. 所属機関における上長等の連絡先（任意） 様式 5	28

I. 「プログラム・マネージャー（PM）の育成・活躍推進プログラム」について

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）は、ネットワーク型研究所として戦略的な研究開発の推進や産学が連携した研究開発成果の展開を通して意思を持った研究開発へのファンディングを進めるとともに、科学技術イノベーション創出の基盤形成のため、科学技術分野の人材の育成、確保、活躍に向けた活動を推進しています。

国内外の人材、知、資金を活用し、新しい価値の創出とその社会実装を迅速に進めるためには、企業、大学、公的研究機関の連携によるオープンイノベーションのより一層の推進とともに、これをマネジメントするプログラム・マネージャーの重要性が高まっています。

このような状況を踏まえ、JSTでは、ネットワーク型研究所としての取り組みを生かし、平成27年度より、プログラム・マネージャーを育成するための「プログラム・マネージャー（PM）の育成・活躍推進プログラム」（以下「PM育成プログラム」という）を創設しました。

その後、現行の「第5期科学技術基本計画」（平成28年1月22日閣議決定）においても、人材力の強化が大きな柱として掲げられ、「科学技術イノベーションを担うのは人である」、「人が組織やセクターを越えて交流することで多様な知識等が刺激し合い、融合し、そこから新たな価値が創り出される」ことなどが明記され、人材教育の重要性が全面的に盛り込まれました。殊に研究開発プロジェクト等の企画と管理を担うプログラム・マネージャー等は、その必要性が言及されるとともに、求められる知識やスキルの明確化などが求められています。

プログラム・マネージャーは我が国におけるイノベーションエコシステムの構築の中核を担う人材であり、オープンイノベーションのより一層の加速により、その活躍の場も広がりつつあります。我が国を中心としたイノベーション実現に向けた活動にとどまらずSDGs（持続可能な開発目標）の実現による国際社会への貢献などにも繋がっていく可能性があります。SDGsは我が国の成長戦略の軸の1つである第5期科学技術基本計画に掲げる「Society5.0」や「第四次産業革命」の実現にも密接に関係するものです。

JSTにおいても、平成28年4月のJSTの構造改革に向けた理事長イニシアチブ「濱口プラン」において、ネットワーク型研究所の中核を担うPM人材のより一層の積極的育成・活用の必要性が示されており、平成29年度に発足した未来社会創造事業においてもプログラム・マネージャー方式を導入し、その卓越したリーダーシップの下、チャレンジングな目標の達成を目指すこととするなどその活躍の場が広がっています。

このように、プログラム・マネージャーの重要性は高まり、研究者や多様なステークホルダーとともに分野融合的な新しい取り組みをプロデュースする人材の確保が急務となっています。この要請に応えるべく、JSTでは令和2年度もPM育成プログラムにおける研修生の募集を行います。



図. プログラムとプロジェクトの関係

(1) PM 育成プログラムの目的と育成を目指す PM の基本的人材像・基本的能力

①PM 育成プログラムの目的

我が国において不足しているといわれている、オープンイノベーションでの研究開発等を主導するプログラム・マネージャーを、講義・演習やマネジメントの実践を通じて育成します。また、研修後の修了生間のネットワーク構築等の取り組みや情報提供等を通じて、マネジメント人材としての活躍をサポートします。

②PM 育成プログラムにおいて育成を目指す人材像

- ・優れた研究成果や技術の異分野融合により、経済・社会へ大きな革新をもたらすことを目標とする挑戦的な研究開発プログラム等を企画・立案できる人
- ・組織の枠を超えて優れた研究者や技術者と協働し、複数のプロジェクトを束ねて実行・管理ができる人

③PM 育成プログラムで想定する PM 人材の3 類型

本プログラムでは、PM 人材の属性として、以下の3 類型を想定し、それぞれの強みを生かす形での育成、研修修了後のマネジメント人材としての活躍推進を目指しています。

i) 研究をバックグラウンドとした PM 人材 :

自らの研究成果や研究分野への知識を強みとして活躍する人材

ii) 企業や研究開発法人等での開発・事業化経験等をバックグラウンドとした PM 人材 :

自らの事業化経験等により培われたマネジメントの専門知識やネットワークを強みとして活躍する人材

iii) 研究開発の推進支援者としての経験をバックグラウンドとした PM 人材 :

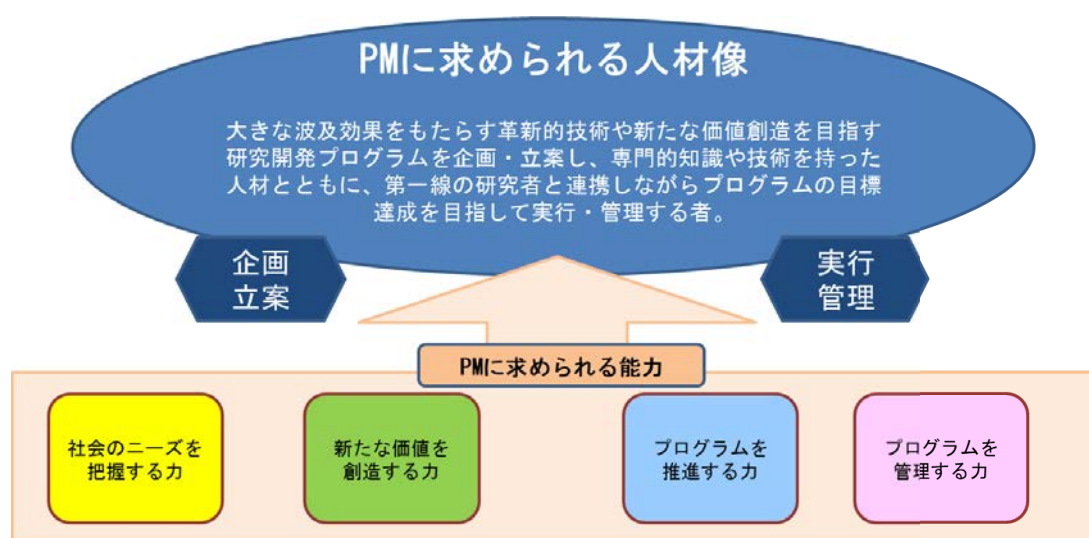
URA や研究開発法人における研究開発の推進支援業務、ファンディング・エージェンシーにおけるプログラム運用を通じて培われた専門的なマネジメントスキル

等を強みとして活躍する人材

④PMに求められる基本的能力

PMに求められる基本的な能力として、「社会のニーズを把握する力」、「新たな価値を創造する力」、「プログラムを推進する力」、「プログラムを管理する力」を想定しています。専門的知識や技術は、この4つの能力が備わってこそ第一線で発揮されると考えています。

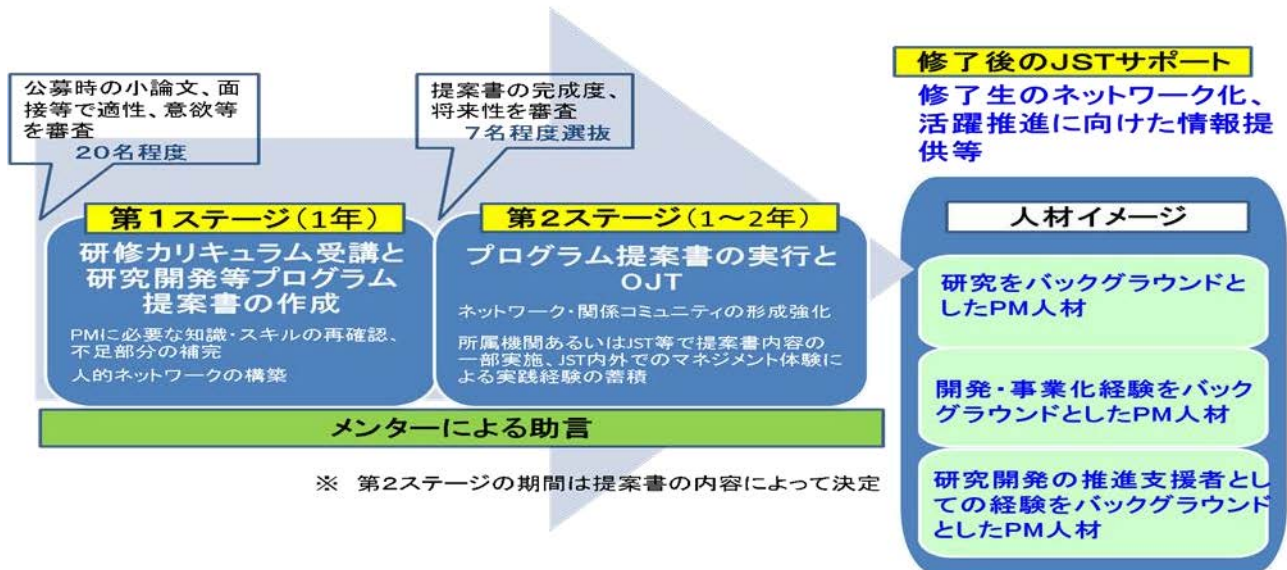
PM育成プログラムでは、この4つの能力を極力バランスよく、かつ効率的に習得できるよう、演習や実践をふんだんに取り入れた研修カリキュラムを準備しています。また講師陣は第一線の先生方をお招きしています。



(2) PM 育成プログラムの構成

PM 育成プログラムは、第1ステージと第2ステージで構成されています。2つのステージで研究開発プログラム等の企画・提案から研究開発等のフェジビリティスタディ実施までのプロセスを通して、PMに必要な知識やスキル等を身につけるとともに、大学・研究機関・企業の研究者等との人的ネットワークを広げるなど、PMに必要な能力を身につけます。PM 育成プログラムの構成イメージを以下に示します。なお、第1ステージのみへの参加も可能です。

PMの育成・活躍推進プログラム



第1ステージ(1年間)

令和2年度のPM研修生(以下「研修生」という)は20名程度を予定しています。講義・演習を通じて、PMに必要な知識・スキルを学び、JSTが委嘱したメンター(以下「メンター」という)の助言を受けつつ、必要に応じて関連する研究等を実施している大学・研究機関・企業の関係者へのインタビュー等の情報収集活動等を進め、自らが構想する研究開発プログラム等の提案書(以下「提案書」という)を作成していただきます。この間に研修生の人的ネットワークの構築も期待されます。

第1ステージ修了認定

以下の条件を満たした研修生は第1ステージの修了が認められ、修了者には修了証書を発行します。

- ・ 講義・演習に原則として80%以上出席していること。
- ・ メンターの了解を得て提案書の作成が完了し、期日内に提出していること。
- ・ 外部有識者による委員会(以下「委員会」という)において、修了者として認定されること。

第2ステージ(1~2年間)

第1ステージで作成した提案書等を委員会が審査し、7名程度が第2ステージの研修に進むこととなります。第2ステージに進んだ研修生は、メンター等からの助言を受けながら、フィージビリティスタディ実施活動(以下「課題実施活動」という)を通じて研究開発シナリオを高度化させるとともに、PMに必要な能力等を身につけます。

第2ステージにおける課題実施活動の経費として、一人当たり5百万円程度を上限としてJSTが費用を支出します(*)。

*経費の金額は、課題実施活動の提案内容や実施計画、事業予算等を勘案してJSTが決定します。

第2ステージおよびPM研修の修了認定

(第2ステージの修了認定)

以下の条件を満たした研修生は、第2ステージの修了が認められます。

- ・第2ステージの課題実施活動を通じて、プロジェクトマネジメント実践を通じたプログラム推進・管理能力と実践的な能力等が育成されたこと。
- ・自らのプロジェクトの実践以外にPMとして必要となる能力・経験等の補完がなされていること。

(PM研修の修了認定)

さらに、以下を加えた総合評価により、PM研修の修了が認められた修了者に修了証書を発行します。

- ・PMとしての基礎能力とプログラム企画力が育成されたこと(第1ステージ)

修了後の活躍推進支援

PM関連情報の提供等、修了者の活躍を支援させていただきます。

特に、JSTが実施する様々な事業と連携し、PMをはじめとしたプログラムマネジメントに携わる職や、マネジメント人材として活躍できるプログラムの募集があった場合に、情報提供などのサポートをしていきます。また、修了生同士の交流・情報交換の場の構築も検討していきます。

修了生の活躍の様子を下記にてご覧いただけます。

<https://pm-jinzai.jst.go.jp/>

(3) PM育成プログラムの特色と主なメリット

このような考え方で構成されたPM育成プログラムは、各機関における個別研修や、外部機関の既存の研修コース等では得られない特色とメリットがあります。

- ① 将来PMを目指す意欲の高い多様な分野やセクターに属する研修生同士が、本格的な討議や演習などを通じ、単に相互を刺激し研鑽するだけでなく、研究開発プログラム等の共同実施等に発展するなど、研修修了後も引き続き研修生(過去の修了生を含みます)間のネットワークが構築できます。
- ② 第一線で活躍するメンターから親身の助言を受けつつ、様々な情報収集やインタビューなどを通じて、研修生自らのマネジメント人材としての方向性の明確化や研究開発プログラム等の構想力の育成、プログラムを実現するための幅広い人的ネットワークの構築

等が期待できます。

- ③ 第1ステージの講義・演習の受講料は無料です。また、参加するための交通費を支給します。
- ④ 第1ステージの提案書を作成するために必要な情報収集活動等に対し、一定額の経費負担を行います。
- ⑤ 第2ステージにおける課題実施活動の経費として、一人当たり5百万円程度を上限としてJSTが費用を支出します
- ⑥ 第2ステージでは、通常の業務では得られない実際のプログラムにおけるマネジメントを体験できます。
- ⑦ 研修修了後は、活躍を推進するサポート（情報提供など）を受けることができます。

(4) 研修生に求められるもの

将来的にPMとして活躍するためのPM育成プログラムの受講に際し、研修生に求められるものは以下のとおりです。

- ① 将来PM等のマネジメント人材として活躍するための強い意思・意欲を持ち、受身で研修を受講するのではなく、主体的にPM育成プログラムによる多様な機会を活用すること。
※第1ステージにおいては全ての講義、演習を受講し、積極的な姿勢で臨むことを求めます。
- ② 全ての研修生と調和しつつ積極的にコミュニケーションをとり、研修生間で建設的な議論を行っていくこと。
- ③ 自らの目指す研究開発プログラム等の企画・課題実施活動に当たり、メンター等の助言を積極的かつ真摯に求め、強い意志と柔軟な姿勢で取り組むこと。
- ④ 研修の更なる向上に向けた研修期間中のアンケート、修了後の活躍状況把握のためのアンケートに協力すること。

(5) 研修プログラムについて

PMとして活躍するために必要な実践的なプログラムを提供しています。

第1ステージ（令和2年10月～令和3年9月）

【研修スケジュール】

研修は、1年間にわたり原則として毎月第2金曜、及び第4金曜の午後に、JST 東京本部／別館（千代田区）で開催します。実施時間は以下の通りです。

1 限目 13：00～14：30

2 限目 14：45～16：15

3 限目 16：30～18：00

※上記とは別に、毎回12：00～13：00と18：00～19：00を、研修生同士が自主的にグループ活動等を実施する時間としてあてていただきます。

※受講料は無料です。研修に参加するための交通費は支給します。

【カリキュラム】

第1ステージでは、全てに於いてグループワークを中心とした実践的な講義を提供します。カリキュラムの前半は、多様なプログラムに対する構想立案手法や新たな社会ニーズを発掘するためのアプローチや考え方を、後半では豊富な事例解析を基にした課題解決手法や実践的な管理手法を中心とした構成となっています。

研修では知識やスキルの習得だけでなく様々なグループワークを通して多くの気付きや多様な考え方を学びます。

研修カリキュラムの一覧は、10ページの表を参照してください。

【提案書】

第1ステージでは、カリキュラムで習得した知識や手法、グループ活動等から得られた発想や気づきを最大限に活用して、自身が企画立案したテーマに対し、研究開発プログラム等の提案書を作成していただきます。

また、提案書のテーマを策定する上で、必要な情報を得るための活動は自主的に計画し、有識者へのインタビューや企業訪問、社会活動等を通じて調査・分析を行うことで、社会的インパクトや市場ニーズ等を把握し、実際に得た情報や経験も提案書に盛り込んでいただきます。

このような活動の支援に向け、JSTは活動費として一定額の経費を負担します。

第2ステージ（1年～2年）

第1ステージ研修生で第2ステージの研修を希望される方は、第1ステージの提案書に加えて、その提案書のうち、第2ステージで実施する課題実施活動をまとめた実施計画書を、第1ステージ後半に提出していただきます。

提案書と実施計画書による書類選考並びに面接選考を行い、第2ステージに採択される研修生（以下「実施代表者」という）7名程度を決定し、第1ステージ修了後に第2ステージに進んでいただきます。

第2ステージの期間は提案書の内容により異なりますが、最長2年とし、基本的に実施代表者の所属機関とJST間で委託契約を締結した上で、実施代表者に5百万円程度を上限として実施経費を交付します（経費の金額は、課題実施活動の提案内容や実施計画、事業予算などを勘案してJSTが決定します）。

メンターの助言も受けながら実施代表者が中心となって課題実施活動を展開していただきます。

課題実施活動の内容は指定しませんが、提案書との関係性の明示、明確な達成目標、実施手法、体制や経費配分の妥当性等が求められます。

第2ステージについての詳細は第1ステージ期間中に改めてご案内します。

（6）メンターによる助言について

メンターは、研修生が研修を受講するに当たり、担当する研修生に対して、以下に示すような助言を面談等を通じて行います。

- ・ 研修生の習得すべき知識・スキル等に関する助言
- ・ 研修生の考えた企画を具体的な提案書とするための助言
- ・ 第2ステージにおける「課題実施活動」の遂行などに必要な助言
- ・ その他、キャリア形成や研修生が研修を受講するために必要な助言

第1ステージの研修カリキュラム（予定）

区分	講座・演習内容	概要	研修方式	想定時間 (hr)	目的・期待効果
I	申請解析	大学関係企業、ベンチャー、大学・研究機関などで成功や失敗した申請を構造化し、さまざまなケーススタディを通して、社会課題の多面的な捉え方や価値創造を達成する際の課題に対する解決手段などについて学ぶ。	講義・演習	9	全体に係わる力
I-1	シナリオプランニング	不確実な将来に対応するシナリオプランニングは、経営戦略の場だけでなく、プロジェクトマネジメントを構築するうえで極めて重要な考え方である。本講座では、プロジェクトを成功させるため、プロジェクトマネージャーはどのようなシナリオを捉え、構築していくべきか、具体的なケースを用いて学ぶ。	講義・演習	4.5	社会ニーズを把握する力
I-2	ビジネスモデルイノベーション	伝統的なビジネスモデルのイノベーションがエコシステム、制度、産業特性や技術などのように見られているが、また伝統的なビジネスモデルの生成・変換プロセスなどを理解し革新的ビジネスモデルを構築する能力を身に付ける。	講義・演習	4.5	社会ニーズを把握する力
I-3	イノベーション創出	イノベーションと革新的技術や発想と何が違うのかという点を理解したうえで、特許的にイノベーションを起こすために何をすればよいか、それに必要な思考方法、方法論、知識を学ぶ。	講義	1.5	社会ニーズを把握する力
I-4	スタートアップ・ベンチャー創出	構られた成果を社会実装までつなげる手段として自らベンチャーを立ち上げて、実現することはプログラムの出口戦略の一つとして有効である。起業家の役割はPM的な要素を多く含むため、講義ではさまざまな申請を渡して申請を成功に導くためのポイントについて学ぶ。	講義・演習	4.5	社会ニーズを把握する力
II-1	思考品質向上	イノベーションを創出する技術(商標)の申請化を目標に定め、その目標達成に向けた研究員発想力を向上させることを通じ、PMとして必要な企画立案能力の獲得を目指す。	講義・演習	12	新たな価値を創造する力
II-2	プログラムデザイン	仕事を多面的に捉え、強みを誇る仕組みとしてデザイン思考のアプローチを理解し、イノベーション創出のためのプログラムデザイン手段の習得を目指す。	講義・演習	4.5	新たな価値を創造する力
II-3	ロジカルシンキング	構想を立案する上で重要なアジェンダ設定能力を促すため、主眼と相関の構造化(ピラミッドストラクチャー)を行い、論理構成を明確化することで、論議のコントロール手段を習得する。	講義・演習	4.5	新たな価値を創造する力
II-4	PM×コンバーゼンス	いま解決が期待されている課題がどの程度社会課題か、また可視化・言語化がされていない重要な課題に取り組むためのマインドセットと決断の習得を目指す。また、研究員に新たなチームとプログラム・プロジェクトの構想の芽が生まれることにも期待する。	講義・演習	4.5	新たな価値を創造する力
III-1	未来シナリオセッション	国内外の様々なステークホルダーとの相互理解に基づいて、建設的な行動を引き出すために必要な手段を理解する。またプログラムコンセットと決断の立案に向けたストーリーを導くための未来思考シナリオの手段を習得する。	講義・演習	4.5	プログラムを推進する力
III-2	モチベーションマネジメント	プログラムマネージャーとしてイノベーションを達成するときにモチベーションを向上させる手段を、経験者の講話から学ぶ。習得することを目指す。	講義・演習	3	プログラムを推進する力
III-3	組織マネジメント	研究員発想プログラムを1つの組織として効果的に運営するためのチームビルディング手段やリスクマネジメント手段の習得を目指す。	講義・演習	4.5	プログラムを推進する力
V-1	プログラム評価	プログラムの評価性を可視化するために必要なモニタリング評価手段やプログラム全体のフレームワーク(価値-課題-評価)を構築するためのロジックモデルなどを構築する。	講義・演習	6	プログラムを管理する力
V-2	対称戦略	研究成果と対称の意思・活用は、プロジェクトの成否を左右する重要な要素である。ここでは、産学連携のプロジェクトにおける対称のマネジメントの重要性と、特に特許戦略のポイントを理解することを目指す。	講義・演習	3	プログラムを管理する力
V-3	研究倫理	プロジェクトを構築するに際し、研究不正を未然に防ぐ手段を習得すると共に、不正発生時に迅速な対応を行うことで、その影響を最小限に抑える手段の習得を目指す。	講義 【オンライン】	3	プログラムを管理する力

II. 公募・選考について

(1) 公募・選考スケジュール

- 公募期間： 令和2年4月23日(木)～6月4日~~(木)~~30日(火)
- 書類選考： 令和2年~~6月~~7月
- 書類選考結果通知： 令和2年7月
- 面接選考期間： 令和2年7月11日~~(土)~~、7月19日~~(日)~~8月中旬までに実施(*)
~~(いずれかの日に面接を実施します)~~ *面接予定者には、面接日時を
通知いたします。
- 採択者決定通知： 令和2年8月下旬～9月上旬9月
- 開講式： 令和2年10月上旬

上記スケジュールは、以下のPM育成プログラムのホームページ（以下「ホームページ」という）で最新情報を確認してください。面接選考日は後日ホームページに掲載します。

<https://pm-jinzai.jst.go.jp/index.html>

(2) 採択予定人数

20名程度を予定しています。

(3) 応募者の要件

原則として、以下の①のいずれか、及び②、③、④の全ての要件を満たしていること。

① 実務経験

- a. 企業等において、新製品や新事業の企画、事業化または研究開発に従事した経験を有する者
- b. 大学・研究機関等において、研究開発活動に従事した経験を有する者、またはリサーチ・アドミニストレーター（URA）もしくはURAと同等の業務に従事した経験を有する者
- c. 国内のファンディング機関（FA）等において、研究開発プログラムを担当した経験を有する者

② 研修への参加

研修カリキュラム（10ページ参照）を全て受講し、且つ研究開発プログラム等の提案書を作成し、指定された日時に提出する意志があること。

③ 所属機関の承諾

PM育成プログラムへの応募及び研修の参加に際しては、事前に所属機関の上司（本件の承諾権限を有する方）の同意を得ること（応募者提出書類 様式-4）。

なお、応募時点で組織に所属していない方は、旧所属先などに依頼して推薦状を提出してください。推薦状の様式は自由ですが、推薦者の氏名、所属機関、役職名、連絡先

等を明記してください。

④ その他

応募時に、研究活動における不正行為もしくは研究費の不正受給や不正使用に関わる参加資格の制限などに抵触していないこと。

(4) 選考方法

選考基準に従って、委員会による書類選考及び面接選考を予定しています。

書類選考に合格した応募者に対して面接選考を実施します。面接日程はホームページでご案内します。

なお、最終選考結果は合否にかかわらず書面で通知します。

(5) 選考基準

JST が指定したテーマに従って期日までに提出された小論文の審査に加えて、面接選考では本事業で重視する以下の人物像の審査も行います。

① 他者との関係構築、熱意

新しいことにチャレンジをしてものごとを成し遂げようとする情熱や意欲を持ち、率先して人々を動かすリーダーシップ、コミュニケーション能力、他者を巻き込む力、人と協働して実現する協働力 など

② 自身の能力、ポテンシャル

幅広い知識と専門性、課題発見力、課題解決力、本質をつかむ洞察力、知識応用力、独創性、考え抜く力 など

(6) 利害関係者の排除

JST 事務局において、委員会と応募者が利害関係にあると判断した場合、選考の公正性が保たれるように対応します。

(7) 秘密保持

応募者が提出した応募書類について、応募者の利益の維持、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」その他の観点から、委員会、JST 並びにメンターは、選考以外の目的に使用しません。審査の過程で知った個人情報及び審査内容に関する秘密は厳守し、他の情報と区別し、善良な管理者の注意義務を持って管理します。

また研修生には、研修修了後も有効な、守秘に関する誓約書を提出頂きます。また、研修生へ助言を行うメンターについても、秘密保持については担保しております。

(8) 公表

応募者の氏名など個人情報は一切公表しません。

(9) 応募に際しての注意事項

公募・選考期間中（公募開始から採択結果通知まで）に、委員会及び JST 事務局に対して、選考に影響を与える行為を禁止します。当該行為があった場合には、当該行為者の氏名及びその旨を公表するとともに、態様によっては不採択とする場合があります。

第三者を介して行う場合も、これと同様とします。

(10) 研修生資格の中断・取消

研修生が以下の項目に該当する場合、JST は当該研修生の参加資格を停止または将来に向かって取り消すことができますものとします。

- ① 応募において、虚偽の申告を行ったことが判明した場合
- ② 研修において、他の研修生の参加の妨げとなる迷惑行為等が判明した場合
- ③ 講義・演習への出席率等の理由により、修了条件を満たす見込みがないと JST が判断した場合。
- ④ その他 JST が研修生として適格性に欠けると判断した場合。

III. 応募方法について

(1) 応募方法

応募に当たっては、次の(2)に示す提出書類一式 (Word) をダウンロードしてお使いください。記入した書類は、PDF形式の電子ファイルに変換し、zipファイルに圧縮した上で以下の宛先までメールで送ってください。

- ① 締め切り：~~令和2年6月4日(木)正午~~ **30日(火)正午**
- ② 送信先：innov-jinzai[at]jst.go.jp (注) [at]を@に置き換えてください。
- ③ 宛先：国立研究開発法人科学技術振興機構 科学技術イノベーション人材育成部PM研修公募担当
- ④ メール の 件名：件名の最初に必ず【第6期公募】を入れてください。
- ⑤ メールアドレス：書類送付には携帯電話のメールアドレスは使用しないでください。

提出書類を受信した後、JST事務局から受付メールを送信します。書類提出後2営業日以上が経っても受付メールが届かない場合、巻末に記載のJST事務局にお問い合わせください。郵送による書類の提出は受け付けませんのでご注意ください。

(2) 提出書類

応募者は以下の①～④の書類を作成し、締め切りまでにメールで提出してください（⑤は任意書類ですので、所属機関と相談してください）。

※紙書類での提出は不可とします。

※提出ファイルの形式はPDFのみとしますが、後日Word等形式のファイルの提出を依頼する場合があります。

※提出書類の白黒・カラーは問いませんが、審査が適切に実施できるように配慮してください。

[提出書類一式]

- ① 応募者の基本情報【様式1】
- ② 小論文【様式2】
- ③ 個人情報の取扱いに関する同意書【様式3】
- ④ 所属機関の同意書【様式4】

※応募時点で組織に所属していない方は、旧所属先などに依頼して推薦状を提出してください。推薦状の様式は自由ですが、推薦者の氏名、所属機関、役職名、連絡先を明記してください。

- ⑤ 所属機関における上長等の連絡先【様式5】（任意）

※JSTは、所属機関としての研修生のキャリアプラン等に関するご要望、個々の研修生の経験や能力等を踏まえたきめ細かな研修実施に努めます。研修実施にあたり、必要に応じて所属機関の上長様等と直接意見交換を行わせていただくことを予定しており、その際の連絡先をご記入ください（本様式のご提出は任意です）。

(3) 注意事項

- ① 書類の提出後、書類の不備等による書類の修正、差替えは一切受け付けません。
- ② 選考過程において、JST事務局から応募内容等について問い合わせを行うことや、追加資料の提出を求める場合があります。
- ③ 提出書類に不備がある場合、提出書類に法令違反・公序良俗違反の内容を含む場合、この公募要領に規定する形式に反する場合は、応募書類として受理しないことがあります。
- ④ このプログラムは JST 事業の一部として行われるもので事業評価の対象となります。採択された研修生及びその所属機関には、研修中及び研修終了後に事業評価等に必要な情報の提供等をお願いする場合がありますので、あらかじめご了解ください。

(以下余白)



プログラム・マネージャー(PM) の育成・活躍推進プログラム 令和2年度(第6期)

応募者提出書類様式(記載要領)

【注意事項】

- 提出日時点における情報を記入してください。
- 各表の縦幅は必要に応じて変更を認めますが、横幅は変更を認めません。
- 様式1、様式2はそれぞれ合計3ページ以内としてください。各項目の記載量は任意です。
太字・下線及び図画の使用については、それぞれ「※文字装飾可」、「※図画可」の記載がある項のみ認めます。
- 文字フォントはMSゴシックとし、文字サイズは10.5ポイントとします。
- 提出後の書類の修正は一切認めません。また提出された書類は返却しません。
- 応募者より提出いただいた個人情報は、本プログラム募集の目的の達成以外には使用されません。JSTの個人情報保護規則は下記ページから閲覧可能です。

<https://www.jst.go.jp/pr/intro/johokokai.html>

1. 応募者の基本情報

様式1は、応募者のこれまでの経験等を元に、PMになるための適性を総合的に見るために記載いただくものです。

記載内容

(1) 応募者の基本情報

所定の欄に記入をお願いします。

(2) 略歴

- ① 学歴（大学卒業以降）
- ② 職歴（主な職歴と職務内容）
- ③ 主な経験・実績（応募者がこれまでに従事したプログラム、プロジェクト、マネジメントに関する主なもの5つ以内。）

(3) 応募者のこれまでの経験等

① 応募者の経験

上記(2)③の中から、下記について該当する項目を選択して（複数選択も可能）具体的に記載してください。

- ・自身が困難を乗り越えた体験。また、その困難をどのように乗り越えたのか。
- ・自身の成功体験。また、自身がどのようにして成功に導いたのか。
- ・自身の失敗体験。また、自身としての失敗要因について。

② 自己分析と学びの動機

上記①の経験から、自身が何を学んだのかを具体的に分析してください。また、自身の現状分析からこの研修で何を学びたいのかを記載してください。

③ 研修終了後のキャリアイメージについて

本研修終了後の、自身のキャリアイメージと目指すPM像について記載してください。

2. 小論文

1) 目的

この小論文はPMとしての適性を見ることを目的に作成していただくものです。研究者や多様なステークホルダーとともに分野融合的な新しい取り組みをプロデュースする人材としてのPMの立場になって、所属機関の目標に留まることなく、目的意識をもって社会課題を解決していくことを目標として小論文を作成してください。

また産学連携あるいは大学等公的研究機関の研究成果の実用化、社会実装をはじめとする科学技術によるイノベーション創出という視点も踏まえて作成してください。

2) 小論文の構成

下記に示す①～③の構成で、チャート図やイラスト等も含め3ページ以内にまとめてください。なお、①～③の中で示す記載の留意事項については例として示すものであり、応募者の考えにより必要な記述をしても構いません。

①社会課題の設定

- ・下記に示す第5期科学技術基本計画やSDGs等のいずれかに関連させて、応募者自らの視点で捉えた社会課題が関係する施策や目標を選択し、関連する番号を記載してください。複数に跨ってもかまいません。
- ・選択した施策や目標に関係し、解決したい社会課題について、以下の点なども含めて具体的に記述してください。
 - ✓選択した社会課題について現状では何が問題になっているのか。
 - ✓現状とあるべき姿との乖離は何か。
 - ✓なぜ、その課題を解決したいと考えるのか。

■第5期科学技術基本計画

第3章「経済・社会的課題への対応」で推進する13の重要施策、あるいは「超スマート社会の実現」（これを14とします）

- (1) エネルギーの安定的確保とエネルギー利用の効率化
- (2) 資源の安定的な確保と循環的な利用
- (3) 食糧の安定的な確保
- (4) 世界最先端の医療技術の実現による健康長寿社会の形成
- (5) 持続可能な都市、及び地域の為の社会基盤の実現
- (6) 効率的・効果的なインフラの長寿命化への対策
- (7) ものづくり・コトづくりの競争力向上
- (8) 自然災害への対応
- (9) 食品安全、生活環境、労働衛生等の確保

- (10) サイバーセキュリティの確保
- (11) 国家安全保障上の諸課題への対応
- (12) 地球規模の気候変動への対応
- (13) 生物多様性への対応
- (14) 同計画に記載の「超スマート社会の実現」

(参考) 第5期科学技術基本計画

<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/5honbun.pdf>

■持続可能な開発目標 (SDGs)

持続可能な開発目標 (SDGs) は、2015年9月の国連サミットで採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年までを期限とする17の国際目標。

(参考) 持続可能な開発のための2030アジェンダ

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000270935.pdf>

②社会課題を解決するための科学的アプローチ

- ・その課題解決に向けて自分自身がどのように仮説をたて、取り組むのかを考え、応募者の視点で研究開発等のプログラム案を記述してください。
- ・想定される市場からの需要、従来技術などを記述してください。
- ・提案するプログラムは、所属組織での取り組みに閉じるものではなく、外部の大学、研究機関や企業、行政機関等の協力者と共に実施することを想定してください。

③課題解決に向けたPMとしての行動

- ・自身がPMとして、どのような行動やマネジメントをするのか、また、プログラムを実施して課題を解決することによりイノベーション創出等、どのような価値が生まれるのかを記述してください。

上記の①②③の関係は下図を参考にしてください。

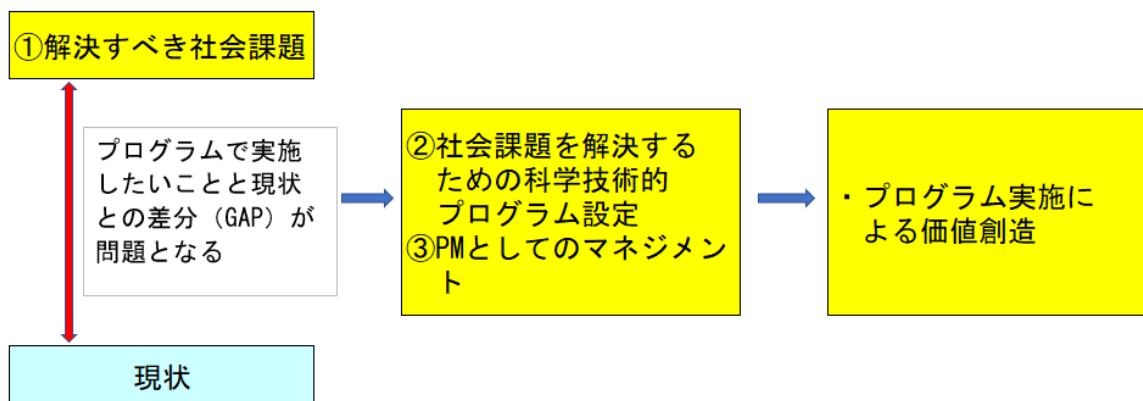


図. 現状と解決すべき社会課題の関係

3) 作成に当たっての注意点

注1) 小論文は様式2に記載すること。

注2) 冒頭に500字以内で【概要】を記載すること。

注3) 参考文献があれば末尾にまとめて記載すること。ただし、参考文献のページは上記3ページ以内の規定の対象外とする。

注4) その他、書類様式に関する注意事項を参照すること。

注5) 記載する内容について、所属機関の理解が必要な場合には、必ず了解を取得してから提出すること。

※様式 1 は合計 3 ページ以内

1. 応募者の基本情報

(1) 応募者の基本情報	
氏名 (フリガナ)	
性別/年齢	/ 歳
所属機関	
部署	
役職	
連絡先 (所属機関)	住所 : (〒) 電話番号 : メールアドレス :
連絡先 (自宅)	住所 : (〒) 電話番号 : メールアドレス :
選考結果の送付先	<input type="checkbox"/> 連絡先 (自宅) <input type="checkbox"/> 連絡先 (所属機関)
(2) 略歴	
<p>①学歴 (大学卒業以降) (記入例) 平成〇〇年 〇〇大学〇〇学部卒業 平成〇〇年 〇〇大学大学院〇〇研究科修士課程〇〇専攻修了 平成〇〇年 〇〇大学大学院〇〇研究科博士課程〇〇専攻修了 平成〇〇年 博士 (〇〇学) (〇〇大学) 取得</p> <p>②職歴 (主な職歴と職務内容) (記入例) 平成〇〇年～〇〇年 〇〇株式会社〇〇開発部 (〇〇〇〇〇〇について開発) 平成〇〇年～〇〇年 〇〇大学特任准教授 (〇〇〇〇〇〇に関する研究に従事) 平成〇〇年～〇〇年 〇〇株式会社〇〇事業部 (〇〇〇〇〇〇事業担当)</p> <p>③主な経験、実績 (応募者がこれまでに従事したプログラム、プロジェクト、マネジメントに関する 主なもの 5 つ以内。) (記入例) 平成〇〇年～〇〇年 〇〇〇プロジェクト</p>	

(3) 応募者のこれまでの経験等

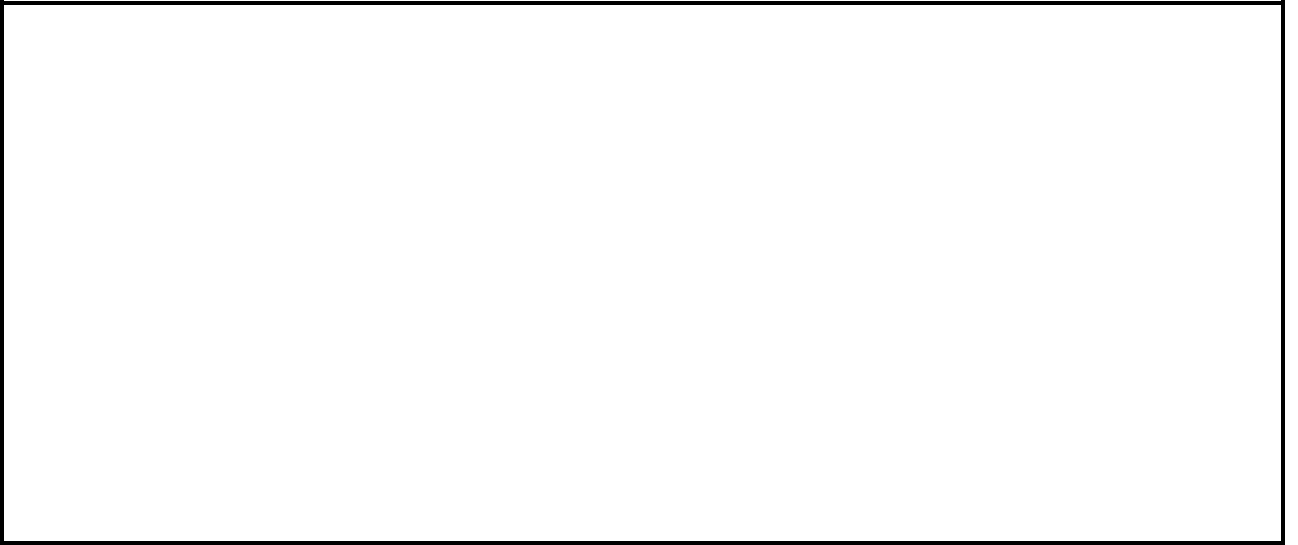
① 応募者の経験について ※文字装飾可

② 自己分析と学びの動機について ※文字装飾可

③ 研修終了後のキャリアイメージについて ※文字装飾可

※様式 2 は合計 3 ページ以内(参考文献一覧のページを除く)。記載例は、削除すること。

解決すべき社会課題	例) リサイクルや未利用資源活用、循環型社会形成
プログラム テーマ	例) 持続的な成長と社会に必要な資源・素材を確保するため、効率利用とリサイクルの推進を通じて、天然資源の量の有限性を克服する。
解決すべき社会課題の分野の理由	例) 資源のリサイクル、有効利用が不十分であるため
【概要】(500 字以内。文字装飾可)	
【本文】(文字装飾可。図画可)	



3. 個人情報の取扱いに関する同意書

国立研究開発法人科学技術振興機構 殿

個人情報の取扱いに関する同意書

令和2年4月23日付で国立研究開発法人科学技術振興機構(以下「JST」という)が公募したプログラム・マネージャーの育成・活躍推進プログラム(以下「プログラム」という)に応募するにあたり、私がJST宛に提出した個人情報(以下「個人情報」という)が、プログラム募集の目的の達成に必要とされる範囲内で、JST内で利用され、かつ共有されること、及びそれに基づく手続きの一環で私宛にJSTから個人情報に関する照会があり得ることに同意します。

以上

令和2年 月 日

住所

氏名

印

4. 所属機関の同意書

国立研究開発法人科学技術振興機構 殿

所属機関の同意書

当機関は、令和2年4月23日付で国立研究開発法人科学技術振興機構が公募したプログラム・マネージャーの育成・活躍推進プログラム(以下「プログラム」という)の内容を理解しており、当機関に属する以下の者(以下「応募者」という)の応募書類の記載内容を確認し、このプログラムに応募することを承知しています。

また、選考に合格した際は、応募者がプログラムの研修に参加することに同意します。

以上

令和2年 月 日

応募者氏名

責任者

所属機関 :

部署 :

役職 :

氏名 :

印

5. 所属機関における上長等の連絡先（任意）

所属機関：

部署：

役職：

氏名：

住所：（〒 ）

電話番号：

メールアドレス：

【JST事務局及び問い合わせ先】

〒102-8666

東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ

国立研究開発法人科学技術振興機構イノベーション人材育成室公募担当

Email : innov-jinzai[at]jst.go.jp (注) [at]は@に置き換えてください。

Tel : 03-5214-8446

受付時間 : 10:00~12:00/13:00~17:00 (土日祝祭日を除く)

ホームページ : <https://pm-jinzai.jst.go.jp/index.html>

※緊急の場合を除き、お問い合わせは極力電子メールでお願いします。

※個別の提案に係る選定経過等に関しては、一切回答できません。

※本公募に関するQ&Aを、上記ホームページに掲載しますのでご覧ください。

<PM 育成プログラムのロゴマーク>

「プログラム・マネージャーの育成・活躍推進プログラム」の愛称を「APPROACH」
として、ロゴマークを設定しています。APPROACHは以下を意味しています。



Advanced Program for PROgram mAnager Candidate Hub